

# EUROPEAN PATENT OFFICE

## Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 61251608  
PUBLICATION DATE : 08-11-86

APPLICATION DATE : 30-04-85  
APPLICATION NUMBER : 60093081

APPLICANT : SHISEIDO CO LTD;

INVENTOR : SHIMIZU KAZUHIKO;

INT.CL. : A61K 7/00

TITLE : PACK COSMETIC

ABSTRACT : PURPOSE: A pack, containing a water-soluble salt of alginic acid and a bi- or polyvalent metal salt reactive with the salt and further urea and amino acid, etc., and having improved usability, quick drying properties, humectant properties, refreshing effect, finished state, peelability, etc.

CONSTITUTION: A pack containing (A) 5~20wt% water-soluble salt or alginic acid, preferably Na salt, (B) 15~35wt% bi- or polyvalent metal salt reactive with the component (A), e.g. calcium citrate, (C) 0.1~10wt% one or more selected from urea and components analogous thereto, e.g. allantoin or 5- methylhydantoin, and (D) an amino acid, e.g. glycine or aspartic acid, and/or a salt thereof, e.g. Na salt. The above-mentioned cosmetic may be further incorporated with polyethylene glycol for further increasing the humectant effect, 1-menthol for further increasing the cooling effect, excipient, colorant, perfume, preservative, etc.

COPYRIGHT: (C)1986,JPO&Japio

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 昭61-251608

⑮ Int. Cl.<sup>4</sup>  
A 61 K 7/00

識別記号 庁内整理番号  
7306-4C

⑬ 公開 昭和61年(1986)11月8日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 バック化粧料

⑰ 特 願 昭60-93081

⑱ 出 願 昭60(1985)4月30日

⑲ 発 明 者 清水 和彦 横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研究所内

⑳ 出 願 人 株式会社資生堂 東京都中央区銀座7丁目5番5号

明 細 書

1. 発明の名称

バック化粧料

2. 特許請求の範囲

アルギン酸水溶性塩類、該塩類と反応しうる二価以上の金属塩類を配合してなるバック化粧料において、尿素、尿素類似物質よりなる群から選ばれた1種又は2種以上とアミノ酸及び／又はその塩を配合することを特徴とするバック化粧料。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、使用性が良好で、冷却効果に優れたバック化粧料に関する。

〔従来の技術〕

バック化粧料は、皮膜を形成させ、その後、剝離するタイプのものが主流であり、その中で、アルギン酸塩の皮膜を利用したタイプが知られている。このものは、アルギン酸水溶性塩類に、硫酸カルシウムのように該塩類と反応しうる二価以上の金属塩類を配合しており、使用時に水と混合し、

泥状となった本品を均一に顔全体に塗布して皮膜を形成させている。

〔発明が解決しようとする問題点〕

しかし、このタイプのバックは、室温で放置するだけで空気中の水分の影響を受け、使用の際に水と混合するとバサバサになり、バックとしての使用性、使用可能期間等が損なわれる為、製品形態として水分を含まない固型分で統一することと、密閉性の高い包装容器を用いる必要があり、清涼感をだすためにはアルコール等の液状の清涼剤が使えず、清涼効果をだすことが不可能であるという欠点があった。

〔問題点を解決するための手段〕

本発明者らは、こうした事情にかんがみ、上記の欠点を解決すべく鋭意研究を重ねた結果、アルギン酸塩を使用する、剝すタイプのバック剤において、尿素、尿素類似物質を、配合することにより冷却効果を増すことに成功した。

しかしながら、このものを配合すると、ゲル化が促進されず本来のアルギン酸塩を配合したバック

剤の特徴である速乾性が損われてしまう欠点が生じることが分り、さらにアミノ酸を配合することにより、速乾性が保たれることを見出し本発明を完成するに至った。

すなわち本発明は、アルギン酸水溶性塩類、該塩類と反応しうる二価以上の金属塩類を配合してなるバック化粧品において、尿素、尿素類似物質よりなる群から選ばれた1種または2種以上とアミノ酸および／又はその塩を配合することを特徴とするバック化粧品を提供するものである。

本発明のバック化粧品は、塗布直後の清涼感に優れその清涼感は持続性もあり、乾燥時間は短く、又、はくり後の肌の潤いは十分満足する等バック化粧品としての特徴を兼備しているという優れたものである。

以下本発明の構成について詳述する。

本発明で用いられるアルギン酸水溶性塩類としては、アルギン酸のナトリウム塩、カリウム塩、アンモニウム塩等があげられる。これらのうちナトリウム塩が好ましい。配合量は5～30重量%で

、好ましくは5～20重量%である。

本発明においてアルギン酸水溶性塩類と反応しうる二価以上の金属塩類としては、クエン酸カルシウム、硫酸カルシウム、乳酸カルシウム、塩化カルシウム、硫酸亜鉛、硫酸アルミニウム、乳酸亜鉛等をあげることができ、これらを一種又は二種以上配合することができる。これらのうちクエン酸カルシウム、硫酸カルシウム、乳酸カルシウムが好ましい。配合量は10～40重量%、好ましくは15～35重量%である。

アルギン酸水溶性塩類は5重量%未満では皮膜が弱くなり、30重量%を超えると、水と混ぜにくくなり好ましくない。二価以上の金属塩類は10重量%未満であると凝固しにくいし、40重量%を超えると皮膜形成が早く進み扱いにくく好ましくない。

本発明で用いられる尿素、尿素類似成分は、たとえば、尿素、アラントイン、5-メチルヒダントイン、5,5-ジメチルヒダントイン等が挙げられる。これらの中から1種または2種以上が任意に選択される。配合量は、0.1～10重量%の範

囲で、0.1重量%未満では冷却効果が少なく、また10重量%超では実用上、化粧品の範囲を逸脱するものであり、規制を受ける。

本発明で用いられるアミノ酸は、中性アミノ酸および酸性アミノ酸であり、例示すれば、グリシン、アラニン、セリン、バリン、トレオニン、アスパラギン酸、グルタミン酸等である。酸性アミノ酸はアルカリ塩の形で用いられても構わない。その塩の対イオンは、任意のもので良く、例えばナトリウム塩、カリウム塩、リチウム塩等の無機アルカリ、アルギニン塩、リジン塩、ヒスチジン塩、オルニチン塩等の塩基性アミノ酸、トリエタノールアミン等の塩基性アミン等の塩を挙げることができる。これらの塩の中では、ナトリウム塩、カリウム塩がとくに好ましい。

本発明においては、上記のアミノ酸および／又はその塩のうちから任意の1種又は2種以上が選ばれて用いられる。配合されるアミノ酸および／又はその塩の量は、尿素および類似物質に対し1/10重量%以上が望ましい。但し過剰のアミノ酸

の添加は、アミノ酸自身が変質し、変色、変臭等を生じるために注意が必要で5重量%迄が好ましい。アミノ酸の配合効果として保湿効果が高まる点も挙げられるが、さらに保湿効果を得るにはポリエチレングリコール4000～20000又は、粉末マビットを配合する。配合量は使用性に依じて任意の量を決めれば良い。

本発明のバック化粧品には、必要に応じ賦形剤（例えば、結晶セルロース、炭酸マグネシウム、タルクなど）40～70重量%、色剤、香料、薬剤、防腐剤などが配合される。又、冷却効果をさらに増し、経時での持続性を持たせるために1-メントールが配合（0.005～0.1重量%程度）される。

もちろんこれらは本発明の目的を損わない質的、量的条件下で使用されなければならない。

#### 〔発明の効果〕

本発明のバック化粧品は、速乾性で保湿効果に優れた、冷感バック化粧品であって、使用性、仕上がり状態、剥し易さ、使用可能期間等バック化

粧料として要求される性質を兼備するものである。

〔実施例〕

以下、実施例によって本発明をさらに詳細に説明する。本発明はこれにより限定されるものではない。配合量は重量%である。

(以下 余白)

(実施例 1, 2, 3, 4, 比較例 1, 2)

		実施例 1	" 2	" 3	" 4	比較 例 1	" 2
1	アルギン酸ナトリウム	20	"	"	"	"	"
2	硫酸カルシウム	15	"	"	"	"	"
3	リン酸三ナトリウム	5	"	"	"	"	"
4	炭素	5	—	10	—	5	5
5	アラントイン	—	5	—	10	—	—
6	1-メントール	0.005	"	"	"	"	"
7	グリシン	0.5	0.5	—	—	0.1	—
8	グルタミン酸ナトリウム	—	—	2	2	—	—
9	結晶セルロース	10, % 100	"	"	"	"	"

(製造法)

1～9をアトマイザー処理して均一に混合してバック化粧料を製造した。

(効果)

上記の実施例 1～4、比較例 1～2のバック化粧料を使用時約2倍の水と混合し泥状物とした。

泥状物を10名のパネルの顔に使用し、その物性などを試験した。

試験項目は下記のとおりであり、その評価を下記のような点数で示した。その結果を第1表に示す。なお表中の評価はいずれも平均値である。

(A) : バック調合時の泥状のゲル化度合

1. 液状で泥状のゲルにならない。
2. 若干粘稠性がでているが均一なゲルになっていない。
3. 適度な粘稠性を示したゲルができた。

(B) : 顔への塗布のし易さ

1. 塗りにくい。
2. ややむらに塗れた。
3. 均一に良く塗れた。

(C) : 塗布直後の清涼感

1. 清涼感なし。
2. 若干感じた。
3. 満足のいく清涼感あり。

(D) : 経時での清涼感の持続性

1. 持続しない。

2. 2～3分迄は清涼感を感じた。
3. 10分後迄で十分清涼感を感じた。

(E) 保湿性

1. しっとりしない。
2. 若干しっとりした。
3. 満足のいくしっとりさを感じた。

(F) : 剥離性 (10分後)

1. 固まらず1枚の膜となつてはがせない。
2. 一部固まらず皮膚にバックが残る。
3. きれいな1枚の膜となつてはがせた。

第1表

バック剤 の実施例	物 性 の 評 価						合計点
	A	B	C	D	E	F	
実施例 1	3	3	3	3	3	3	18
実施例 2	3	3	3	3	3	3	18
実施例 3	3	3	3	3	3	3	18
実施例 4	3	3	3	3	3	3	18
比較例 1	2	1	3	3	3	1	13
比較例 2	1	1	2	2	2	1	9

第1表から明らかなように実施例 1～4のバック化粧料は、清涼感、保湿効果等に非常に優れた速

乾性バックであることが判る。

(実施例5、6、7、8、比較例3、4)

		実施 例 5	" 6	" 7	" 8	比較 例 3	" 4
1	アルギン酸カリウム	15	"	"	"	"	"
2	クエン酸カルシウム	30	"	"	"	"	"
3	クエン酸ナトリウム	1	"	"	"	"	"
4	尿素	0.5	—	—	—	3	—
5	5-メチルヒダントイン	—	0.5	3	7	—	7
6	1-メントール	0.05	"	"	"	"	—
7	アラニン	0.1	0.1	—	—	0.1	—
8	セリン	—	—	0.5	—	—	—
9	バリン	—	—	—	1	—	0.5
10	PEG 4000	1	"	"	"	—	1
11	粉末マビット	1 to 9%	"	"	"	—	1
12	タルク	100	"	"	"	"	"

(製造法)

1～12をアトマイザー処理して均一に混合してバック化粧料を製造した。

第2表

バック剤 の実施例	物 性 の 評 価						合計点
	A	B	C	D	E	F	
実施例 5	3	3	3	3	3	3	18
実施例 6	3	3	3	3	3	3	18
実施例 7	3	3	3	3	3	3	18
実施例 8	3	3	3	3	3	3	18
比較例 3	2	1	2	3	1	1	10
比較例 4	2	1	2	1	2	1	9

実施例1～4と同様にして物性の評価を行った結果、実施例5～8は、清涼感、保湿効果等に非常に優れた速乾性バックであることが確認された。

特許出願人 株式会社 資生堂